

## 第1回西尾幡豆のグランドデザインを創る有識者会議 会議録

- ・日時：平成21年10月28日（水）10:00～11:50
- ・場所：西尾市役所2階 22B 会議室
- ・出席：（委員）小島誠、高須芳光、平岡将暢、服部憲明、岡田明美、鈴木正昭、長坂正志、加藤洋一、稲垣敏子、鈴木茂、牧野匠、福田利郎、河隅彰二  
（事務局）西尾市 小野田部長、榊原課長、筒井主幹、大内主事  
一色町 平岩主幹  
吉良町 近藤課長  
幡豆町 深谷課長  
合併推進プロジェクトチーム 齋藤主査、岩瀬主査
- ・欠席：（委員）柴田高広、磯貝総一郎、鳥山欽示

【敬称略】

### 1 榊原市長あいさつ

### 2 西尾幡豆のグランドデザインを創る有識者会議について

- ・西尾幡豆のグランドデザインを創る有識者会議設置要綱の説明
- ・有識者会議設置趣旨及び目的の説明
- ・今後のスケジュールの確認  
12月末までにグランドデザインを策定する。  
それまでに計4回の会議開催を予定している。
- ・委員自己紹介

### 3 正副会長の選出

- ・会長に小島誠委員（西三河農業協同組合代表）、副会長に平岡将暢委員（西尾幡豆青年会議所代表）が選出された。

### 4 協議事項

- ・西尾幡豆のグランドデザイン構想について

#### 【委員からの主な意見】

一市三町の海岸線には、春先は潮干狩り、夏になると海水浴場、一色町のさかな広場などがある。しかし、道路の整備が遅れていて不便。豊田ジャンクションからこちらへ引っぱりってくるという西三河南北道路の構想を早く進めることにより、集客率の向上と地域の活性化に繋がる。

潮干狩りの時期に限らず、渋滞が多い。アクセスしやすいようなインフラ整備が必要。防災面では、一色町の消防団ではボランティアでとても有意義な活動を行っ

ている。西尾市には消防団がないので、考えてほしい。

昭和20年代は西三河で2番目に大きな町が西尾だった。その後60年経って、どうかということ考えた上でグランドデザインを創ることが大事だと思う。名古屋から一色やこちら方面を見た場合、「陸の孤島」と言われるのが残念である。個々の問題ばかりに囚われると地域同士の利権がぶつかり合うことになってしまう。過去の歴史を踏まえて考えていかなければならない。

一色の悪水路は昔は泳げたが今はヘドロだらけである。そういうことを踏まえて話を進めていかなければならない。

西尾市プラス3町で4だが、お互いの良いところを組み合わせれば5や6になると思う。たくさんの観光客に来てもらえるような広報活動を考えるべき。お茶、うなぎ、せんべい、三ヶ根山など観光資源は豊富だと思う。

宿泊施設がない関係で今まで県大会の会場に選ばれなかったが、吉良、幡豆に宿泊施設がたくさんあるので、そういったことが可能になるのではないか。

情報発信が大切だと思う。

経済状況の悪化の影響もあり、昨今の政策の中心は「産業活性化」から「安心・安全」に転換したが、他地域の合併で困ったという例を挙げると、コミュニティバスがある。地域の足をどうやって確保していくかという問題である。

他には、NPO等の市民の団体を行政とどういった関係で位置づけていくかが重要だと思う。

幡豆町には豊かな自然がある。子どもの国、前島、沖ノ島、三ヶ根山の利活用を考えていくべき。近年佐久島が芸術の島として取り組んでいるのは、非常に素晴らしいことだと思う。今後も、テーマパーク的なものではなくて、自然を重視した開発ということで、佐久島から始まり、さかな広場、ワイキキビーチ、幡豆の潮干狩りと、海岸線の利用を検討していくべき。特にあさは日本でも有数の漁獲量を誇っているのでPRしたい。

総合計画を見てみると各市町とも「安心して心豊かに・・・」とあるが、医療の分野については、不安もあると思う。吉良の例を取ると、外科医がいない。そういった不安を取り除いていくことも大事だと思う。

観光分野では、たくさん人が来ても、平均滞在時間が短いと、経済効果が薄い。せっかく来てもらうのだから、長時間滞在していく方法を考えるべき。昨今B級グルメが盛り上がっているが、それが成功すれば大きな経済効果が期待できる。「食べる」という動機はかなり良いと思う。西尾でも、西尾おでんを始められているので、うまくPRしていったらどうか。

吉良には宿泊施設もあるので、総合的に広報を行って、長時間滞在を狙っていけば、全国から来てもらえる可能性はある。

インフラ整備を進めていくには自主財源の確保が一番大事。そのための企業誘致、観光資源を使った人寄せが重要になる。なんのための合併か。合併のために税金が上がったり合併貧乏になってしまっは意味がない。

幡豆町では町長の思いもあり、不登校が少ない学校づくりを目指しており、結果も出ている。自然に恵まれ、子どもたちはのびのびと学校に通っている。合併後、中学生の海外派遣の人数や、学校給食の方式(自校方式、センター方式)がどうなっていくのかが心配される。

(以 上)